

令和 5 年 6 月 21 日現在

機関番号：13701

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K13284

研究課題名(和文) 経済格差に基づく女性の連鎖的結婚移動と家族に関する地域間比較研究

研究課題名(英文) Comparative Study on Women's Chain Marriage Migration and Family Formation

研究代表者

堀江 未央(Horie, Mio)

岐阜大学・地域科学部・助教

研究者番号：80773522

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究期間全体を通じて、単著『娘たちのいない村 - ヨメ不足の連鎖をめぐる雲南ラフの民族誌』の出版、共著書籍『中国の国内移動 - 内なる他者との邂逅』の刊行を実現させ、国際ワークショップを2回実施し、論文を5本(本課題のみの投稿論文は3本)執筆し、中国における女性の移動とジェンダーについて地域間比較研究の成果を複数出すことができた。フィールドワークの実施可能性が断たれたのちも、他の研究者や研究資金などと補完関係を持ちつつ、中国国内の移動の動態を地域間比較し、議論の土台を築くことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果は、主に中国をフィールドとして、経済格差が引き起こす人口移動のジェンダー化の様相と、それが家族にどのような影響をもたらすのかを地域間比較に基づき論じた点にある。中国において、国家周辺部の(しばしば非漢族を含む)人々が、経済発展の著しい都市部に移動することによって、都市部との接触が起こっている。それがジェンダーや家族のあり方にいかなる変化を引き起こすか、複数地域の研究事例と比較しつつ論ずる土台を築いた。また、中国の経済成長は周辺諸国の人口移動を加速させているが、それが実際にいかなるルートを通してどのような媒介を通じて起こっているのかを明らかにしたのも本研究の社会的意義のひとつである。

研究成果の概要(英文)：Throughout the entire period of this research, I have realized the publication of the monograph "A Village Without Daughters: Bride Shortage, Marriage Migration and Women's Belonging among the Lahu of Southwest China" and the co-authored book "Internal Migration in China: Encountering Others Within". I also organized two international workshops and wrote five papers (three papers submitted only for this project), producing multiple results of inter-regional comparative research on women's migration and gender in China.

Even after the feasibility of fieldwork was declined, complementary relationships with other researchers and research funds allowed us to build on the discussion by making interregional comparisons of the dynamics of migration in China.

研究分野：文化人類学

キーワード：中国・ミャンマー国境 婚姻 ジェンダー 移動 中国少数民族 ラフ

1. 研究開始当初の背景

1980年代以降の中国において、急激な経済成長と共に拡大する地域間経済格差は、内陸部農村から沿海発達地域へと大量の労働移動を引き起こしている。しかし、もう一つの波として、西南部少数民族地域から華東・中南地域へと進む女性の婚出現象はあまり知られていない。

現代中国における女性の結婚に伴う移動の原因は、深刻なヨメ不足である。1980年代以来、計画生育政策による産児制限に直面した中国農村では男児出産を望むために男女比の不均衡が拡大している。また、若年未婚女性の出稼ぎの普遍化は未婚女性に経済力をもたらし、これの女性が男性に求める婚資は高騰している。その結果、配偶者獲得が困難になった多くの貧しい農村男性が、より婚資の安い西南少数民族地域にヨメ探しに赴く現象が急増している。これに関する従来の研究の多くは女性の婚出先での調査に基づいているが、それらの分析には送出社会との連続性が欠けている。

2. 研究の目的

本研究では、中国における女性の婚姻移動を、受入社会での女性の生活と送出社会との連続性から理解することを目的とする。中国における経済格差とヨメ不足が引き起こした現象でありながら、ラフ・漢族間の国内結婚とラフ・ラフ間の国際結婚にはいかなる違いが見られるのか、また、そこに国境や既存の親族関係などの要素がいかに作用しているかを明らかにする。

3. 研究の方法

本研究の方法は、女性の移動先である華東・中南の漢族農村、移動の基点である雲南省、女性の新たな供給先であるミャンマー北部の三地点において、調査村落を選定し、各世帯へのインタビューとフィールド調査を実施することである。それを通して、女性の移動の経緯・方法、それに伴う家族・婚姻形態の変化、送出社会と受入社会間の往来や関係を明らかにする。

しかし、本課題の実施途中に妊娠・出産というライフイベントがあり、フィールドワークの実施に困難が生じた。その後、2019年にはミャンマー北部および雲南省西南部での短期フィールドワークを実施したものの、新型コロナウイルスの世界的蔓延およびミャンマーにおける軍事クーデターが起こり、以後実施を予定していたフィールドワークのすべてを実施することができなかった。そのため、研究手法を変更し、文献研究および隣接分野の研究者との議論を通じた共同研究を行うこととした。

4. 研究成果

本研究の成果としては、第一に、2018年に単著『娘たちのいない村 - ヨメ不足の連鎖をめぐる雲南ラフの民族誌』を出版したことである。本書では、経済格差に基づく女性の連鎖的結婚移動と家族に関して、博士研究の成果とその後の研究結果を用いて、ラフ族の事例から実証的に論じたものである。本書は、第22回(2018年度)国際開発研究大来賞を受賞し、高い評価を得た。その後、本研究成果を含む「現代中国におけるヨメ不足の連鎖と少数民族女性の婚姻移動に関する研究」という本研究課題の成果は、第8回名古屋大学石田賞を受賞した。名古屋大学石田賞は、自然科学分野の受賞が多い賞であり、人文社会学分野での受賞としても高く評価することができる。

第二に、本研究課題を中国全土に拡大して比較する視点に基づいて、中国の内国移動に関する研究会を立ち上げ、その成果として、川口幸大、堀江未央(編)2020『中国の国内移動 - 内なる他者との邂逅』(京都大学学術出版会)の刊行を実現したことである。中国各地をフィールドとしてこれまで研究を行ってきた人類学者らと共に、国内の人口移動が各地でどのような事態をもたらしているか、メアリー・プラットの「コンタクト・ゾーン」をひとつの分析軸にしつつ地域間比較を行った研究の成果である。自身の研究成果としては、ラフ女性たちが婚出を通して漢族とのあいだに築く関係が、家族という親密圏に踏み入れる関係であり、軋轢を生みつつも漢族への偏見を少しずつ和らげていくものであることが多いのに対して、出稼ぎのラフ男性が都市に出かけて築く漢族との関係はより断片的であり、そこでの漢族との接触が、新たな呪術の疑いやそれに対する対抗呪術の実践を生み出していることを論じた「移動の危険に対処する呪術

雲南ラフの男たちと出稼ぎ」を執筆した。そのほか、北は内モンゴル、東は沿海都市部の浙江省義烏市や珠江デルタ、南は雲南省まで、都市および農村を含む幅広い地域のフィールドワークと協働し、中国各地の状況に目を配りながら、移動から捉える土台となる成果を出すことができた。さらに、本研究成果は、本書の執筆者の一部とともに、台湾の『亞太研究論壇』に特集号として英語の投稿論文を寄稿する予定である。

第三に、第二の成果と関連して、国際ワークショップなどの研究会を通じた国際交流である。四川大学および南方科技大学での国際ワークショップの実施を通して、多くの中国人研究者と交流し、協働しつつ国際共同研究を推し進めることができた。なかでも雲南大学の沈海梅教授との研究交流では、今後中国各地の女性の婚姻移動と搾取に関する共同研究への発展を計画して

いるところである。新型コロナウイルスによる渡航制限のため、研究期間中に具体的な計画立案には至らなかったが、今後の実現に向けて議論を進めていく予定である。

さらに、第一の研究成果を通して、異なる他者との邂逅が、互いの存在を認め合う共生関係に至るか、それとも排除と関係の途絶へ向かうか、その分かれ道が何に規定されているのかという状況へと関心を向けることにつながった。異なる他者との共生的関係とはいかなる状態のことを指すのか、また、共生的関係が途絶した際にその関係を再度切り拓く可能性について、身体と共生を軸に据えた研究関心を発展させてきた。本研究課題と議論を交叉させつつ、「移動と共生」研究会を立ち上げ、雲南省のラフと漢族の共生的関係の発露と途絶について、他地域の事例との比較を通して議論を進めていった。その成果として、東南アジア学会のパネルセッション「東南アジアの境界域および紛争経験社会からみた共生的関係と身体」の企画を立ち上げ、各発表をとりまとめて議論を行った。さらに、報告者個人の研究内容としては、ラフ族の身体とその構成要素が、漢族の身体とのあいだでどのように浸透や共有の可能なものととらえられているかを身体論として考察した中部人類学談話会での個別講演「共生的関係をひらく身体？雲南省山地民ラフにおける魂・功德・漢族」がある。ここでの討論を通して議論を精緻化させ、現在投稿論文の取りまとめを行っているところである。

以上が主な研究の成果である。人類学的研究成果を生み出す源泉であるフィールドワークの可能性が途絶してしまったなかでの研究推進となったが、既存のデータを異なる角度から見直すことを通して、複数の研究成果を出すことができた。また、今後の研究の種となる様々な共同研究の可能性を具体化し、その実現に向けた計画を進めることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 堀江未央	4. 巻 111
2. 論文標題 第10回EuroSEASに参加して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東南アジア学会会報	6. 最初と最後の頁 15-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀江未央	4. 巻 231
2. 論文標題 文字がもたらす権威の行方 中国雲南におけるラフ文字創設と口承文化の関わり	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア遊学	6. 最初と最後の頁 69-85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀江未央	4. 巻 43
2. 論文標題 〔研究動向〕女性の越境移動研究の展開：アジアにおける婚姻移動を中心に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 社会人類学年報	6. 最初と最後の頁 145-163
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件（うち招待講演 8件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 堀江未央
2. 発表標題 もめごとを / が生み出す関係 - 雲南ラフにおける移動と身体 -
3. 学会等名 東南アジア学会第103回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Mio Horie
2. 発表標題 Recipes of Yunnan Mushrooms
3. 学会等名 伝統野菜についての国際ウェビナーセッション アジアにおける遺伝資源と関連する伝統的知識の活用と保全のための「東アジア・共感モデル」の構築 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Mio Horie
2. 発表標題 The Marriage and Labor Migration of the Lahu in Yunnan and Myanmar." Project Initiation Workshop"Religion, Economy and Gender in the Upper Mekong Region: Historical and Anthropological Perspectives
3. 学会等名 Project Initiation Workshop "Religion, Economy and Gender in the Upper Mekong Region: Historical and Anthropological Perspectives" (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mio Horie
2. 発表標題 From Refugee to Bride Source: Marriage and Migration among the Lahu in Myanmar-China Border
3. 学会等名 the 10th EuroSEAS Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mio Horie
2. 発表標題 New Connections and Boundaries: Chained Marriage Migration among Lahu in China-Myanmar Border
3. 学会等名 EAAA Annual Meeting 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mio Horie
2. 発表標題 Seeking a Good Land to Live: Changing the Direction of Lahu Migration across the China-Myanmar Border
3. 学会等名 UBIAS Topic of the year 2019 Workshop on Migration and Cultural Spaces (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堀江未央
2. 発表標題 中国におけるヨメ不足の連鎖と雲南省ラフ族女性の遠隔地婚出
3. 学会等名 南山大学人類学研究所2019年度第3回公開講演会(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 堀江未央
2. 発表標題 中緬国境域におけるラフの移動と“宗教”の空間配置
3. 学会等名 東南アジア学会北海道・東北地区特別例会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 堀江未央
2. 発表標題 深森中の生存：雲南ラフの“移動的慣習”與其今日的变化」
3. 学会等名 第二回国際ワークショップ「現代中国の人口流動与社会変遷」特設テーマ「移動之慣習：人口流動及其地域性」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堀江未央
2. 発表標題 娘たちのいない村のはなし
3. 学会等名 名古屋大学オープンレクチャー2019 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堀江未央
2. 発表標題 迷走するひょうたん：中国雲南省瀾滄ラフ族自治州における「ラフ文化」の政治
3. 学会等名 日本文化人類学会第51回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 堀江未央
2. 発表標題 出稼ぎ移動がもたらす呪術の流行：雲南省ラフ族の事例から
3. 学会等名 南山大学人類学研究所主催・公開シンポジウム「移動と流行 現代中国のコンタクト・ゾーン」(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 堀江未央
2. 発表標題 兩種相遇：雲南ラフ族の現代的移動と“漢族”形象的変遷
3. 学会等名 International Workshop “現代中国の人口流動与族群關係” (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 堀江未央
2. 発表標題 共生的関係をひらく身体？雲南省山地民ラフにおける魂・功德・漢族
3. 学会等名 中部人類学談話会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 堀江未央
2. 発表標題 呪術を使う漢族？中国の少数民族ラフから見たマジョリティの姿
3. 学会等名 アカデミックフラッシュ第17報（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Mio Horie
2. 発表標題 A Wave of Ethnic Reunion? Changing Flows of Migration among the Lahu living in the Upper Mekong Region
3. 学会等名 14th International Conference on Thai Studies（国際学会）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 松田素二、川田牧人	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 432
3. 書名 『世界の冠婚葬祭事典』	

1. 著者名 川口 幸大、堀江 未央	4. 発行年 2020年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 319
3. 書名 中国の国内移動	

1. 著者名 堀江未央	4. 発行年 2018年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 348
3. 書名 娘たちのいない村 - ヨメ不足の連鎖をめぐる雲南ラフの民族誌	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 第二回国際ワークショップ「現代中国的人口流動与社会変遷」	開催年 2019年～2019年
--	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------